

生活

生活科では、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力の育成に向け、児童の思いや願いを実現していく過程において、教科等間の「横のつながり」や幼児教育との「縦のつながり」を意識しながら、「体験活動」と「表現活動」を繰り返し、気づきの質を高めることが大切です。

生活科の授業づくりのポイント

- 気づきの質を高めるために、幼児教育や各教科等での「学びの姿」を把握し、児童の思いや願いに基づく多様な学びを支える教師の関わりの充実
- 気づきの質を高めるために、単元やまとまりの中で、児童が体験等で得た気づきを表現し、新たな気づきを見出すことができる場面の設定

小単元名「なつの あそびを たのしもう」

【授業づくりのポイント①】

幼児教育での学びを、生活科を中心とした学習において発揮できるようにし、児童の思いや願いをきっかけとして始まる学びが各教科等の学習へとつながっていくようにすることが大切です。

【幼児教育とのつながり】

【小単元の目標】

身近な自然や夏の特徴を生かしながら、夏の遊びを工夫して考え、友達と楽しみながら遊びを創り出すことができる。



幼稚園やこども園、保育所では、夏にどんな遊びをしたかな。

砂場に水を流して、大きな川を作ったのが、とても面白かったよ。



水でっぽうで、みんなで水をかけあって遊んだのが楽しかった。またやりたいな。

しゃぼん玉を作って遊んだよ。とても大きなしゃぼん玉を作った人がいたよ。



やってみたい夏の遊びは何かな。みんなでどんな遊びができるかな。

【授業づくりのポイント②】

児童の気づきは、教師が行う単元構成や学習環境の設定、学習指導によって高まります。児童が、具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるよう、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うことが大切です。

【体験活動】

■単元構成の工夫：他教科等との関連的な指導

- 生活科の指導では、各教科等での児童の「学びの姿」を把握し、教師の関わりの充実を図ることが大切です。
- 【図画工作科における学びの姿の例】
 - ・砂や土を触った感じなどを基に、自分のイメージをもつ。
 - ・楽しくいろいろな色水をつくることから、思い付いたことを試す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。 など

■学習環境の設定の工夫

- 児童一人一人の思いや願いの実現に向けて、試行錯誤して何度も挑戦することができる活動を設定します。

■学習指導の工夫

- 教師が尋ね返したり問いかけたり共感したりするなどの言葉かけや働きかけをして、活動の充実につなげます。

砂・土あそび

長いトンネルを作りたいな。



穴を掘ると、すぐに崩れるよね。



長くても崩れないトンネルを作るためには、どうしたらよいか。

砂に水をたくさんかけてみたらどうかな。



しゃぼん玉

しゃぼん玉はどうやって作るのかな。

ストローやはりがねを使ったよ。

大きなしゃぼん玉をつくりたいな。

しゃぼん玉のつくり方をタブレット端末で調べてみたらどうかな。

水とばし

水でっぽうを作りたいな。

身の回りで使えそうな容器はあるかな。

どの容器が一番飛ばすか比べてみよう。

穴の大きさによって飛び方は変わるかな。

穴の大きさを調べて、試してみよう。

楽しかったことや気付いたことをみんなに話したいな。

楽しかったことや気付いたことを伝え合って、みんなでもっと楽しい遊びをつくれなかな。

【授業づくりのポイント③】

気づきの質を高めるためには、気付いたことを伝えたり、交流したり、振り返って捉え直したりして表現する場を工夫することが大切です。

表現する活動は、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出し、気づきの質を高める深い学びにつながります。

【表現活動】

■単元構成の工夫：他教科等との関連的な指導

- 生活科の指導では、各教科等との関連を積極的に図り、両者の指導の効果を高めることが大切です。
- 【国語科の指導事項】「A話すこと・聞くこと」
 - (1)ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
 - (1)イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えること。

水とばし

水がかかったけど、楽しかったよね。

情動的な気づき

暑い日は、水が気持ちいいね。また、みんなでやりたいね。

水とばしゲームを考えてみようか。

誰が遠くまで飛ばせるか競争してみたいな。

新たな思いや願い

ギュッと強く押したら、遠くまで飛んだね。

知的な気づき

穴の大きさは小さい方が、遠くまで飛んだね。

- 話したり、書いたりすることで無自覚だった気づきが自覚されていきます。
- 伝え合い交流することで、より一つ一つの気づきは関連付けられていきます。
- 振り返ったりまとめたりすることで、視点を変えて自分自身の成長や変容に気付いていきます。
- 相手意識や目的意識をもって表現活動に取り組むことによって、各教科等における資質・能力の育成にもつながります。

新たな思いや願いから、次の【学習活動】へ

【授業づくりのポイント④】

体験活動と表現活動を相互に繰り返しながら、学習活動の質を高めることが大切です。